School Life in 千秋 Vol.35

令和４年度　表彰式

「学校表彰」は、特に優れた成果を上げ、学校の発展に貢献し模範となる生徒や、特別活動・部活動において、特に優れた業績を上げた生徒に対して贈られます。

今年度は、第７７回国民体育大会（いちご一会とちぎ国体）剣道競技少年女子の部において準優勝した二人に贈られました。

〇日時　令和５年２月２８日（火）　午後１時

〇表彰された生徒

剣道部　　３年Ｃ組　　小　野　萌　子
剣道部　　３年Ｃ組　　佐　藤　悠　月

校長先生からのお祝いの言葉

　ただいま、部活動において特にすぐれた業績を上げた剣道部の二人の生徒を表彰しました。学校表彰は三年ぶりのことで、コロナ禍で学び続けた三年生の旅立ちに花を添えるものとなりました。
　二人は、秋に栃木県で行われた国体の剣道競技、少年女子団体の秋田県チームの中心メンバーとして活躍し、準優勝に導きました。試合には、秋田商業高校の三人の生徒と共に出場し、一回戦では兵庫県、準々決勝で佐賀県、準決勝で香川県を破り、決勝では地元栃木県と戦い、二対一で惜しくも優勝を逃しました。決勝で、佐藤さんは先鋒として逆転勝ち、小野さんは大将として一本先取されたあとに一本決め、引き分けに持ち込むという堂々とした戦いぶりでした。試合を終えて、佐藤さんは、「トップレベルの選

手が後ろに控えている安心感から思い切り戦えた」と振り返り、小野さんは「流れをつないでくれた仲間に感謝しかない」と共に稽古に励んだ他校の生徒に感謝の言葉を述べています。指導には本校の加藤先生の他に、監督として能代高校の教員、コーチとして湯沢翔北高校の教員が当たりました。監督を務められた能代高校の教員は、「栃木県とは実力では負けていなかった。全員がいい剣道をした」と讃えております。秋田県剣道連盟による県外遠征でも鍛え上げた結果であり、連盟の強化策が実を結びました。このように、このたびのすばらしい成績は、日頃の北高での部活動に加え、自らを鼓舞し、時に追い込んだ稽古の賜ではありますが、そこにはたくさんの人がいたことを改めて心に留め、誇りと自信にしてください。

佐藤さんも小野さんも大学に進学し、剣道を続けると聞いております。健康に留意し、全国から集う剣士と相まみえ、精進努力を重ね、切磋琢磨し、将来は、秋田県の剣道界の発展に力を発揮されることを期待しています。全校の生徒は、このたびの表彰を讃えると共に、この成果をそれぞれの日々の生き方に活かすことをお祈りし、結びといたします。

令和５年２月２８日

秋田県立秋田北高等学校長　永井　元